

この世はお浄土だと 親鸞聖人は味わいました

親鸞聖人の書かれた現世利益和讃げんぜりやくわさんという十五首の歌があります。十三首目に「南無阿弥陀仏を唱えんと、観音菩薩勢至菩薩が、ガンジス河の砂の数の菩薩と、影のようについて下さいます」とあります。

一般的に、この世で仏陀の救いに出遭って、あの世は極楽浄土に生まれて、永い修行のその後に阿弥陀仏と同じ仏陀になると信じていますが、それは親鸞聖人以前の思想です。

親鸞聖人は「なもあみだぶつに救われたその瞬間からお浄土に生まれているのだ。そして、命終われば阿弥陀仏と同じ仏陀となって人々を救うのだ。それを弥勒菩薩と同じ位、不退転の菩薩という」と言われています。

私達は、人生を計画しながら生きていますが、計画はこの世の終わりまでの計画です。延長はありません。だから不安になるのです。

阿弥陀仏に救われた人は、人間の姿をしていても、今極楽浄土にいて無数の菩薩と一緒に仏陀になるために生きているのです。この世の終わりが来ても、次は阿弥陀仏と同じ仏陀になる死を超えた永遠の計画を与えてもらっているから、私達は安心して生きているのです。それが、人間として本当の意味でのより良く生きるということなのでしょう。合掌

